



本校の授業改善に向けた視点					
教育課程編成上の工夫	指導内容・指導法の工夫	校内における研究・研修の工夫	評価方法の工夫	家庭や地域との連携の工夫	小中一貫教育の視点
◇国語科の研究成果を生かし、各教科の学習の中で、自分の考えをもち交流することによって、さらに広げ深める力を継続的に育成する。(朝トク活動など) ◇習熟に応じた指導や補充的な学習・発展的な学習を取り入れ、個に応じた指導の一層の充実を図る。	◇年間指導計画・評価規準を見直し、授業における指導と評価の一体化を図る。 ◇3年～6年の、習熟度別算数指導を実施し、個に応じた指導をする。 ◇各教科で言語活動を充実させた指導を行う。	◇研究主題「見通しをもち、筋道を立てて考え、進んで表現できる立野の子」(算数科) ◇研究授業〔6回〕や事前授業の充実を図る。	◇1時間での評価規準を1項目に絞る。 ◇国語・算数科では観点毎に適切な評価をする。 ◇児童の学習意欲の向上を図るために、自己評価や相互評価を積極的に取り入れる。	◇学校公開日を年に3回設定し、保護者や地域住民に公開する。 ◇道徳授業地区公開講座を2月に実施する。 ◇地域、PTAと共催でもちつき大会を実施し、相互の交流を図る。	◇石神井西中学校での部活動見学、職場体験の受け入れなど児童と生徒との交流を計画的に行う。 ◇課題改善カリキュラムの検討を行う。 ◇校区別協議会において小学校と中学校の情報交換等充実を図る。